授業名	ミュージックライツ・マネジメント		
開講学期	2026年度秋学期	開講区分	週間授業
単位	2単位	授業形態	
担当教員	吉原　潤		
曜日・時限	金曜4限	教室	C511（階段教室）
実務経験のある教員による授業科目		科目ナンバリング	ARTM107
科目分類		配当学年	1年
授業で使用する言語	日本語		

アクティブラーニング科目

実技・実習	演習	ディスカッション・ディベート	グループワーク	フィールドワーク
プレゼンテーション	成果発表	ロールプレイング	反転授業	PBL（問題解決学習）

成績評価

種別	評価割合	備考
課題提出	50%	各授業後後に小レポート提出
筆記試験	50%	最終授業内でレポート提出

以上の方法により総合的に評価を行う。

ディプロマポリシーとの関係性(R7年度抜粋)※R6以前は「履修要綱」関連頁を参照

専門技能・知識	文化・教養	多様性理解
自己表現力	コミュニケーション能力	実践力

求められる成績水準（GPA）の目安

教育到達目標と概要

・一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）による寄付講座である（2026年度より新規開講）。
・JASRACを始めとして、各業界で実務経験等のあるゲスト講師を週替わりで招聘する。
　※各回の内容と講師の日程は調整中であり、諸事情により変更あるいは順番が前後する可能性がある。
・ゲスト講師の講義を通じて、今日の音楽に関わる創作者・実演家を取り巻く、多様な権利やそれに伴って展開される経済活動について、概括的に理解することを目標とする。

ICTの活用

小レポートや期末レポートの提出等にTeamsまたはUNIPAを活用する。

学修成果

・関係業界で実務経験等のあるゲスト講師の講義により、音楽にまつわる諸権利を知るとともに、そこからどのような経済活動が展開されているのかを理解できるようになる。
・上記の理解を通じて、履修者が卒業後の自身のキャリア設計を考えるにあたり、自らが関係する諸権利を意識することができるようになる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス／若手創作者あるいは実演家（卒業生）によるトーク
第2回	インターネット時代の音楽ビジネス（YouTube/SNS）

第3回	著作権制度の仕組み①—著作権とは（JASRACより派遣のゲスト講師）
第4回	著作権制度の仕組み②ー著作権使用料の申請実務（JASRACより派遣のゲスト講師）
第5回	フリーランスの基礎知識ーフリーランス法・契約書・確定申告・インボイス
第6回	音楽出版社のビジネスモデル—レコード製作・楽譜出版
第7回	実演家の権利—著作隣接権
第8回	マーケティング志向のアーティスト・プロモーション
第9回	大規模舞台制作のビジネスモデル—オペラ/バレエ
第10回	ミュージックツーリズムの経済ー音楽フェス
第11回	（地下）アイドルの経済戦略
第12回	映画製作のビジネスモデル—プロデューサーの役割、製作委員会方式など
第13回	ファンダムエコノミー（ファンクラブ運営、センイル広告など）
第14回	まとめと試験

履修上の注意

毎回の授業時に小レポート提出を必須とし、これを課題として履修者の理解度を確認する。また、それを元に期末レポート（最終授業において執筆）を課し、筆記試験として扱う。これら授業レポートと期末レポートの内容をもって評価をおこなう。

授業外学修の内容と時間

・各回のゲスト講師の講義テーマについて事前に調査し、自分なりのイメージを把握しておくこと。
・また講義後は、事前のイメージと実際との差異について考えるとともに、新たに得た知見について復習し、さらに自ら深堀りをしてみること。

予習時間	60分	復習時間	90分

課題に対するフィードバックの方法

各授業内で、履修者とゲスト講師との間で質疑応答を行い、各講義テーマについての理解を深める。

教科書・参考書

・必要に応じてレジュメやプリントを配付。
・音楽をめぐる諸権利について、日頃よりアンテナを張っておくこと。